

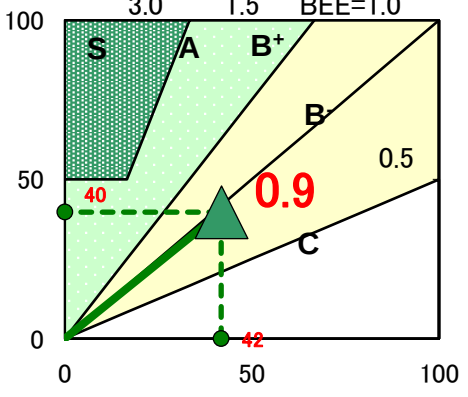
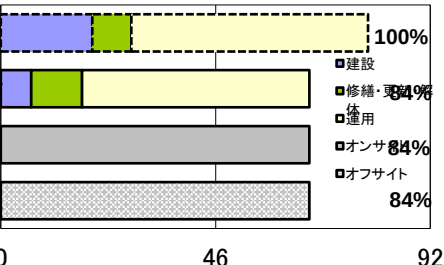
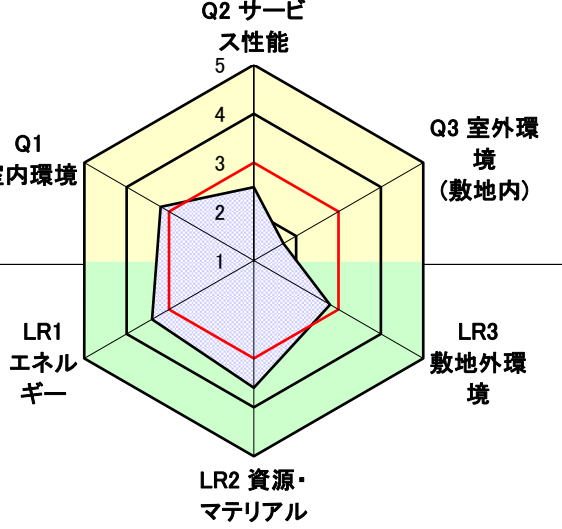


評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE 名古屋(新築)2016年版、名古屋市長官公署建築環境総合評価システムマニュアル2016 | 使用評価ソフト：CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)千種区大久手町7丁目新築工事	階数	地上10F
建設地	名古屋市千種区大久手町7丁目26番1、26番2	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	399 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年9月 予定	評価の実施日	2021年2月1日
敷地面積	3,304 m ²	作成者	
建築面積	1,047 m ²	確認日	2021年2月1日
延床面積	7,731 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
= BEE0.9 ★:★★★★★ A:★★★★★ B+:★★★★ B:★★★ C:★★ 	☆☆☆☆ 100%超☆☆☆ 100%☆☆☆☆ 80%☆☆☆☆ 60%☆☆☆☆ 30% 標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+オフサイト手法  このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです	

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q のスコア= 2.5

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.2

項目	スコア
音環境	2.7
温熱環境	3.0
光・視環境	3.0
空気質環境	4.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.5

項目	スコア
機能性	2.5
耐用性・信頼性	2.9
対応性・更新性	2.2

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア= 1.7

項目	スコア
生物環境	1.0
まちなみ	2.0
地域性・	2.0

LR 環境負荷低減性

LR のスコア= 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.4

項目	スコア
建物外皮の	4.0
自然エネ	3.0
設備システ	3.5
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.6

項目	スコア
水資源	3.0
非再生材料の使用削減	3.6
汚染物質回避	4.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア=2.8

項目	スコア
地球温暖化への配慮	3.6
地域環境への配慮	2.4
周辺環境への配慮	2.5

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
周辺になじむヒューマンスケールな建物デザイン及びランドスケープデザインとする。外部環境は敷地周辺の空間構造を読み取り、駐車・駐輪場の配置を決定し、ユニバーサルデザインにも配慮した。内部空間は、自然の屋光を十分に享受できるよう配慮するとともに、維持管理のしやすさにも配慮。劣化対策等級3など、耐用性にも配慮した計画とする。		既存建物の杭基礎をなるべく避けた配置計画とすることで廃棄物の削減に配慮する。
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
快適な室内環境を確保できるよう配慮し計画した。内部空間は、自然の屋光を十分に享受できるよう全住戸で冬至においても3時間以上日照が確保できる計画としている。また、内装材料にF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用するなど空気質環境に配慮した計画とする。	ユニバーサルデザインに配慮した快適な空間を提供できるよう計画した。耐用性・信頼性については劣化対策等級3とするなど、十分に配慮した計画としている。防汚性の高い内装材料や充分な清掃員室や倉庫を確保するなど維持管理計画にも配慮している。	既存のまちなみの環境構造を踏取り、豊かな生活環境を継承して美しいまちなみを創り出す計画とする。まちに対する顔づくりや、周辺環境を意識した外観デザインにより緑化と合わせた計画としている。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
住宅性能表示基準の「断熱等性能等級」における等級4同等の性能を有する断熱材によりエネルギーの削減に配慮した計画とした。	節水型便器やリサイクル資材の採用など資源の再利用を図ると共に、水資源の保護に努めた計画とした。	適切な量の駐車場及び駐輪場台数の確保、光害を抑制した外構照明計画など、敷地外環境に配慮した計画とする。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)千種区大久手町7丁目新築工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.3
LR1	エネルギー	3.5	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.6	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				1.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.045	
3. 循環型社会				3.4
LR2.1	水資源保護	3.0	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.6	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.3	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.3



2. 自然共生

評価点 = 1.3



3. 循環型社会

評価点 = 3.4



重点項目のスコアは以下のように算出している。

重点項目スコア = $\frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。